

趣味を通じた生きがいがづくり

十人十色

Vol.12

スポールボール

きっかけは「日本代表の募集」



重さ1kg金属製の球を転がして的に当てたり、相手の球を弾き飛ばしたりする。スポールボールで勝つためのポイントは「スポールボールを楽しんで続けること」

——熊野さんはスポールボールの日本代表として大会にも出場されていますが、どのようなスポーツなのか。

フランス発祥のスポーツで、原型となる競技は約5000年前から行われていたことから「世界最古の球技」と言われています。種目は6種類あり、走りながら5分間で球を的に当てる数を競う「プログレッシブ」や1対1で球を転がし相手よりに近づけることを競う「シングル」などがあります。日本国内の競技人口は約60名と少ないですが、世界大会の参加国は約30カ国あり、特にヨーロッパで盛んです。

——熊野さんが、興味を持たれたきっかけは？

2014年に日本のエース・豊田想さんがラジオ番組で「日本代表を募集します」と熱く語っていたことがきっかけです。私自身ちょうど何かスポーツを始めたいと考えていたので、「この競技だ！」と思い体験会に参加して始めました。

——初めて挑戦した時は、どんな感想をもたれましたか。

助走をつけて球を投げ、約13m先にある球を弾き飛ばす練習をしたのですが、球が当たった時の「カーン！」という音がものすごく気持ちよかったことを覚えています。

——スポールボールを始められたことについて、周囲の反応はいかがでしたか。

「スポールボール」という名前を覚えてもらうだけで時間がかかり、超マイナースポーツの厳しい現実を突き付けられま

熊野 健 さん
清瀬市職員

【くまの・たけし】1977年神奈川県横浜市出身。2015年、38歳の時にスポールボールを始め、2016年の日本選手権で優勝。2017年の世界選手権、2019年5月のアジア・オセアニア選手権の日本代表。



した。ただ、2019年5月開催のアジア・オセアニア選手権で銅メダルを獲得して職場にもっていった時は、とても喜んでくれました。

——練習はどうされているのですか。

週末の1～2日は「ブルスポーツさいたま」というチームで練習しています。チームには10代～70代の会社員や学生、公務員など約10名が所属しています。それに加えて、仕事後に時間をつくり自主練習も行うようにしています。理想は毎日練習することですが、週4～5日になっているのが現状です。

——熊野さんにとってスポールボールの魅力は？

体力を必要とする種目から戦術や技術を必要とする種目まで、老若男女どんな方でもできる種目があるのが魅力です。

——スポールボールを始められて、何が変わりましたか。

以前は休日でもダラダラと過ごすことが多く、体調も崩しがちでしたが、時間を決めて練習することで休日でもメリハリをつけて生活できるようになり、体調もほとんど崩すことがなくなりました。時間も有効に使えるようになりました。

——熊野さんにとってスポールボールはどんな存在ですか。

球を的に当てたり、的に向けて転がして自分より近づいた球を弾き飛ばすというシンプルな競技で、かつ6種目もあるので、飽きがきません。楽しみながら体調管理にも役立っているスポールボールは、今ではなくてはならない存在です。

——今後、どのように関わっていきたいですか。

目下最大の目標は、2021年5月にオーストラリアで開催予定のアジア・オセアニア選手権に出場して、世界選手権の出場枠を獲得することです。そのための練習と同時に、体験会をできるだけ多く開催して、競技人口を1人でも増やしていきたいと考えています。



「ブルスポーツさいたま」のメンバー
(左から3人目が私です)